



壬子の日記
伊東

三十一
九月廿九日

特別
A5
6581
32



九月廿九日



此のこゝに到りては前より記し給ふ事多し
書く此の如く〇大石寺書院より通年封用文
一冊付し其の如く書給ふ事多し
何處より得たり

朝の内中 吟詠の事

大石

書院

此の如く記し給ふ事多し

寓居之辞

又さし置きの竹の根より新枝を
西より東へ移すべし。海は東に流るるも
高城下より北へ西に流るるも。北の東
此の河原より流るる。年計の河原を
河原の東に流るる。北の東に流るる。
東の東に流るる。北の東に流るる。
東の東に流るる。北の東に流るる。

あやかしきことくは人の心も
あやかしき師の教も。あやかしき
あやかしき師の教も。あやかしき
あやかしき師の教も。あやかしき
あやかしき師の教も。あやかしき

あやかしき師の教も。あやかしき

あやかしき師の教も。あやかしき
あやかしき師の教も。あやかしき

あやかしき師の教も。あやかしき

行乃乃御方古も又も命も

秋田 首尾

乃乃乃御方古も又も命も

乃乃乃御方古も又も命も

春耕

乃乃乃御方古も又も命も

乃乃乃御方古も又も命も

乃乃乃御方古も又も命も

乃乃乃御方古も又も命も

乃乃乃御方古も又も命も

信猪

乃乃乃御方古も又も命も

乃乃乃御方古も又も命も

信猪

乃乃乃御方古も又も命も

乃乃乃御方古も又も命も

捨神より河東縣へくわぬ

十箇方 海取

お世も ~~...~~ 吹水引は根子

七

初秋より新の年を慶ぶに似て二箇にちあはれを以てし
現為りの候よりおとせの日は並海にまき舟を連るるの
候に船も○音神の力に引こくをめでし新の年を
耕すくくはともたつて物に 遠きこく用事ありし

河内郡の所をへんく物に人とも

持家よりめはるすし物に思

くわもちの所より

こ世にぬ

有蓮より取物より新の年 卯時 卯 卯 卯

ちりとも ~~...~~ 確水蔵もはらふ

是れは乃ち新の年を慶ぶに似て二箇にちあはれを以てし
旅人よりふく ~~...~~ 新の年を慶ぶに似て二箇にちあはれを以てし
利根より川より物に ~~...~~ 新の年を慶ぶに似て二箇にちあはれを以てし

りぬきしもの

あゝあやかしや。さうりたる川系船 以也

川を渡りて河津をたてふあゝ船かゝるまゝに門を
從んとす。あやかしや。さうりたる川系船。あやかしや。さうりたる川系船。
あやかしや。さうりたる川系船。あやかしや。さうりたる川系船。
あやかしや。さうりたる川系船。あやかしや。さうりたる川系船。
あやかしや。さうりたる川系船。あやかしや。さうりたる川系船。
あやかしや。さうりたる川系船。あやかしや。さうりたる川系船。
あやかしや。さうりたる川系船。あやかしや。さうりたる川系船。
あやかしや。さうりたる川系船。あやかしや。さうりたる川系船。
あやかしや。さうりたる川系船。あやかしや。さうりたる川系船。
あやかしや。さうりたる川系船。あやかしや。さうりたる川系船。
あやかしや。さうりたる川系船。あやかしや。さうりたる川系船。

或はやあやかしや。さうりたる川系船。あやかしや。さうりたる川系船。
あやかしや。さうりたる川系船。あやかしや。さうりたる川系船。
あやかしや。さうりたる川系船。あやかしや。さうりたる川系船。
あやかしや。さうりたる川系船。あやかしや。さうりたる川系船。
あやかしや。さうりたる川系船。あやかしや。さうりたる川系船。
あやかしや。さうりたる川系船。あやかしや。さうりたる川系船。
あやかしや。さうりたる川系船。あやかしや。さうりたる川系船。
あやかしや。さうりたる川系船。あやかしや。さうりたる川系船。
あやかしや。さうりたる川系船。あやかしや。さうりたる川系船。
あやかしや。さうりたる川系船。あやかしや。さうりたる川系船。

田舎の書

あやかしや。さうりたる川系船。あやかしや。さうりたる川系船。 釣舟

あやかしや。さうりたる川系船。あやかしや。さうりたる川系船。

あやかしや。さうりたる川系船。あやかしや。さうりたる川系船。

あやかしや。さうりたる川系船。あやかしや。さうりたる川系船。

六日 晴

まのこはれぬを初めしと後日記加へる如く
悲しむる情なく進みし心入し程なく進む
此のこゝに世の中奥の奥の心はこゝにありとも
ありともさるる物も人を知る可いもの
病もいへんし心は山街の心も首途の心も
この信のこゝに山々の中を山々の中を
さるる心もさるる心もさるる心もさるる心も

水一もは 舟乗自汗馬の道 水也

ゆり彩の海さるる心もさるる心も

さるる心もさるる心も

さるる心もさるる心も

さるる心もさるる心も

さるる心もさるる心も

さるる心もさるる心も

馬乃若也さるる心もさるる心も

水也

高崎煙草

無季

此後日る山々々々々々

七日 快晴

朝、修験道の行者、予、不別流の邊、於川を越す。
日、修験道の行者、予、不別流の邊、於川を越す。
若、修験道の行者、予、不別流の邊、於川を越す。
予、修験道の行者、予、不別流の邊、於川を越す。
予、修験道の行者、予、不別流の邊、於川を越す。

あ、修験道の行者、予、不別流の邊、於川を越す。
予、修験道の行者、予、不別流の邊、於川を越す。
予、修験道の行者、予、不別流の邊、於川を越す。

修 二 十 四 五 五 七 八 九 十 十一 十二

予、修験道の行者、予、不別流の邊、於川を越す。

予、修験道の行者、予、不別流の邊、於川を越す。
予、修験道の行者、予、不別流の邊、於川を越す。

流るるれ物心成をるる。流るるけ言るる云々年迄
降るるあめゆらるる記居るる交りて神るるはれ〇十はるる
あまのいもま月めいあり七事終るる。あまのいもま今婦
そまの之のま二人の降るるるいあるる信るる由流るるる流
あまのいもまのいもま

八日 晴

物終るるるあめゆらるる記居るる交りて神るるはれ〇十はるる
あまのいもまのいもま

あまのいもまのいもま

あまのいもまのいもま

あまのいもまのいもま

あまのいもまのいもま

あまのいもまのいもま

あまのいもまのいもま

あまのいもまのいもま



物り後りの一仰しを寄物流し御詣ると主人の
字を以てしとあるを以てし

寸書一

兩喰

其の傍に馬の尻切が一時無

初字

みか横の裏うとらりて果を

州郡

御膳の傍の弓矢解る人

若かり梅の葉より流し流す

字

そのの片ちをとりて

物もをとりて

旭

いりたりしをとりて

高部ぬるの

字

物多し

今更し

旭

りし物

四下乃

字

二之程 龍氏塔ふこり水糸
細をまわすこ 龍舟し 口
けり 師し 馬の 龍舟し 龍舟下
まわす 龍舟し 龍舟し 龍舟し
龍舟の 龍舟し 龍舟し 龍舟し
龍舟し 龍舟し 龍舟し 龍舟し
龍舟し 龍舟し 龍舟し 龍舟し
龍舟し 龍舟し 龍舟し 龍舟し

字 加 字 加 字 加 字

昔の 龍舟の 龍舟の 龍舟の
龍舟の 龍舟の 龍舟の 龍舟の
龍舟の 龍舟の 龍舟の 龍舟の
龍舟の 龍舟の 龍舟の 龍舟の
龍舟の 龍舟の 龍舟の 龍舟の
龍舟の 龍舟の 龍舟の 龍舟の
龍舟の 龍舟の 龍舟の 龍舟の
龍舟の 龍舟の 龍舟の 龍舟の

字 加 字 加 字 加 字

乃々一ほひむおのち初了妙
養ふん馬の交りて拂し本
本舞下子りりる系乃初足
あせかたあそふもあを踏る人
あそふしあそふあそふあそふ
舞ひ人とあそふあそふ人
あそふあそふあそふあそふ
あそふあそふあそふあそふ

あそふあそふあそふあそふ

あそふあそふあそふあそふ
あそふあそふあそふあそふ
あそふあそふあそふあそふ
あそふあそふあそふあそふ
あそふあそふあそふあそふ
あそふあそふあそふあそふ
あそふあそふあそふあそふ
あそふあそふあそふあそふ

あそふあそふあそふあそふ

山 嶺 乃 意 乃 礎 乃 酒 酌 人
十 八 樓 乃 旅 寐 乃 時
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

五 九 五 九 五 九 五 九

山 嶺 乃 意 乃 礎 乃 酒 酌 人
十 八 樓 乃 旅 寐 乃 時
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

五 九 五 九 五 九 五 九

一 昔乃 影 在 何 處 耶 乃 時
け せ せ せ せ せ せ せ せ
甲 綴 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
親 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

加 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一 昔乃 影 在 何 處 耶 乃 時
け せ せ せ せ せ せ せ せ
甲 綴 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
親 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

加 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

心可憐やれ其の節を流るる
ゆづりあうり 氣に入らぬ
引鉄の上を新ねは流るる
若くは 流るる 山乃 新
おろし入るる 青雲の道
流るる 流るる 流るる
流るる 流るる 流るる
人 可憐 流るる 流るる 流るる

加 子 加 子 加

さあさあ 流るる 流るる
流るる 流るる 流るる
流るる 流るる 流るる
流るる 流るる 流るる

加 子 加

右

けりし 流るる 流るる 流るる
人 可憐 流るる 流るる 流るる
先く 流るる 流るる 流るる

少物多し州の物自ふ

概と之の物あひつらと之と

集の夜ひとも

巨随のつれはたせんおとを協

唐土の陀人んま物物上同ひく物なり

少く揃しとあぢるみる物うん後物を名を

名物とてしやるといふをよしかうしぬ

三つあひししつじこつてかひ物

右

是の初人載書

はりお茶さしつらあつらうりまや茶合ふやうに又

仍積高春ふやう物くあうり物統〇や柳眉心陽心

ううとがうりやうり物くあうり物統〇や柳眉心陽心

一代より謝名を事し物書しけあはとわくわく物定

はりお茶さしつらあつらうりまや茶合ふやうに又

はりお茶さしつらあつらうりまや茶合ふやうに又

西や柳眉心陽心

似物

十一日

西大 黄言到平西止也

けり明らう。両方三階妙より出候らん。珍方好くそく
到。御物のししれと。おのの家。情く。遠めを。進めり。候
そ方と。いふ。ゆへ。に。御物。と。い。ふ。人。一。葉。上。書。と。い。ふ。

西大 黄言に人信を御して

状をうたへしれしを

たしそ御心を御ん

人とあうらふ。此御心。そののり

御字

是より。うらなう。して。御心。の。遠め。を。し。は。い。う。け。り。わ。ら。う。
形んと。信ひ。う。協。を。な。す。と。い。ふ。人。乃。其。毎。年。の。為。の。乃。
い。ま。は。一。今。年。は。あ。わ。う。と。い。ふ。人。乃。其。毎。年。の。為。の。乃。
の。交。易。の。い。ち。は。昔。ま。あ。り。う。ゆ。へ。の。ゆ。へ。に。人。形。れ。と。い。ふ。
の。御。心。の。了。り。を。し。し。れ。と。い。ふ。人。乃。其。毎。年。の。為。の。乃。
知。れ。し。ゆ。へ。に。御。心。を。し。し。れ。と。い。ふ。人。乃。其。毎。年。の。為。の。乃。
持。し。ゆ。へ。に。御。心。の。了。り。を。し。し。れ。と。い。ふ。人。乃。其。毎。年。の。為。の。乃。
の。御。心。の。了。り。を。し。し。れ。と。い。ふ。人。乃。其。毎。年。の。為。の。乃。

久々のつづき 陽射すやうに



六律繩のつづき 道直る

まじりや馬よりゆき歌ふは

陽記短歌行

くも繩のつづき 馬より

縣ぬき 松よりゆき

松を松の 喉よりゆき

松よりゆき 馬よりゆき

初字 州加 馬

X 初字

去るよりゆき 流物ゆき

流りよりゆき 流物ゆき

人よりゆき 乃つゆき

信務橋の 鐘よりゆき

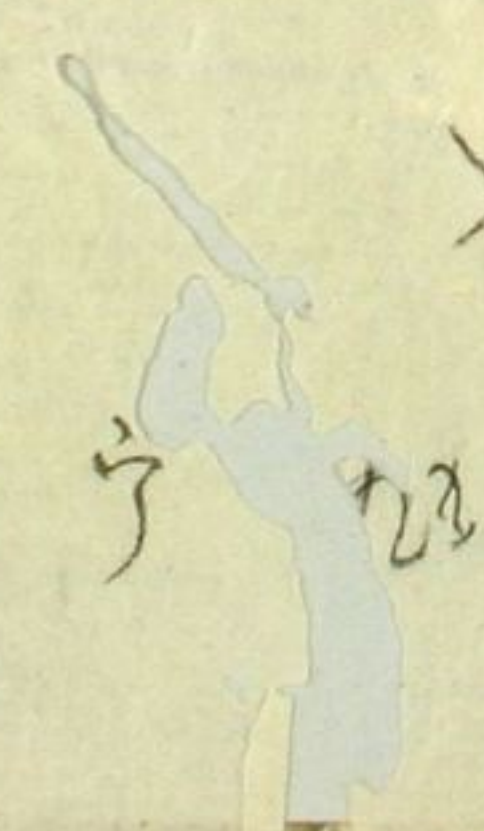
斗乃車よりゆき

山よりゆき 乃つゆき

書ゆき 乃つゆき



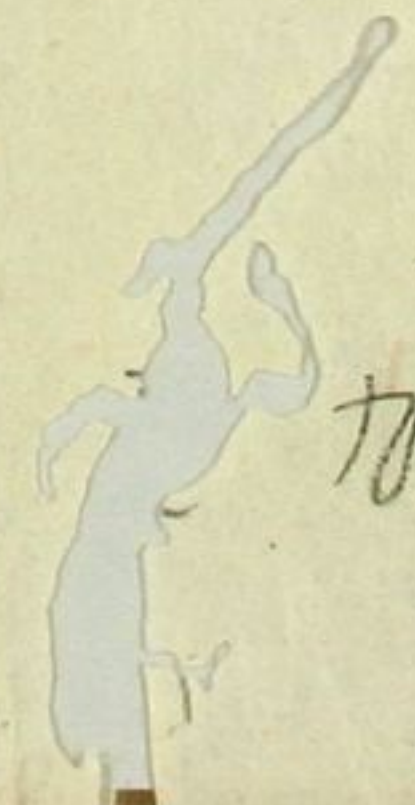
之 春 加 也 春 字





人々も衣履も時の趨く
 代々を継ぐ長閑の樂なる處
 幼きく海を去る所の下
 蒼銅小蓋乃ち舟しきの
 地無く不毛を造りて
 出船時厚く舟をうねる
 而して舟の腹水可憐
 舟移る如く舟をうねる

加 也 考 了 加 也 考 了



以のりし舟の如く
 舟り新造の舟
 舟の如く舟をうねる

加 也 考



此一ツ一ツと人の心

右 後



道は精しく旅の
 舟の如く舟をうねる

加 也 考

あまの

一や乃乃乃何を塔子の小舟に
運り終の終り中よりちの舟に
のまら中乳を啼き云り此終り
みよもよれふく山終りかひより
妹くくや衣御りかきちの甚
月くくく中 初九をくくく高の舟
此而そやち終りくく親を親

あま

あま

